

一般社団法人日本環境化学会

# 平成27年度臨時理事会

日時:平成28年1月7日(木)13:00~14:00

場所:東京理科大学理窓会 PORTA 神楽坂 6 階 第1会議室

## 議題

### 1. 25周年記念講演会開催の件

(資料1「日本環境化学会の今後の取り組みについて」を参照)

1-1 開催時期

1-2 開催場所

1-3 講演テーマ

1-4 講演者

### 2. 部会活動の活性化の件

(資料1「日本環境化学会の今後の取り組みについて」を参照)

2-1 支援策

2-2 地区部会の地区割り

### 3. 第27回環境化学討論会の開催地の件

(資料2「2018JEC 那覇へのアプローチ」を参照)

## 日本環境化学会の今後の取組について(議論のためのたたき台)

柴田康行

人の日常生活や社会経済活動における化学物質や新素材などの役割が益々重要に、かつ多様化しつつある中で、「環境と化学物質に関わる学問分野の学際的調査・研究の推進及び知識の普及を図り、もって、化学物質による環境汚染の防止及び環境保全に寄与し、学術文化の発展に貢献することを目的とする(定款第 3 条)」本会の役割も益々重要なものとなってきている。創立後、四半世紀という区切りの年を迎える機会を捉え、これまでの経緯をまとめつつ、次の四半世紀にむけた環境化学の課題、将来像を展望し、そのための活動を活発化していくために、当面、以下にのべるような活動を行っていくことを昨年 8 月の臨時理事会で決議した。

- 1) 25 周年記念誌発行
- 2) 25 周年記念講演会開催
- 3) 部会活性化にむけた取り組み

本理事会では、さらに以下の点について議論の上、方針を決定したい。

**2) 25 周年記念講演会開催案(議論のためのたたき台)**

\* 開催時期 6 月 8 日(水)午前 9~12 時

\* 開催場所 新潟市朱鷺メッセ(第 25 回環境化学討論会と同一会場)

\* 講演会の主題(仮題)「環境化学、25 年の歩みとこれから」

討論会実行委員会の意向を尊重し、第 25 回討論会の主題講演等とうまく連携をとりながら、講演会と討論会を通して環境化学の 25 年を振り返り次の四半世紀の研究の方向性や課題について議論し考える場としたい。

\* 講演者候補(内容、候補者等、討論会と要調整;選定の仕方はどうするか)

: 森田昌敏名誉会長、その他本会で中心的に活躍されてきた方

: 中堅、あるいは若手研究者(特に次の 25 年の研究課題を念頭に)

: 他学会、あるいは海外からの著名研究者

: 環境省関係者

開催時期については、通常の 2 日半のスケジュールで討論会を開催する場合、25 周年の記念イベントを合わせて行うことはスケジュール的にかなりタイトになることから、討論会とは別に秋頃に行うのがよい、というのが臨時理事会での意見の趨勢であった。しかしながら、今年度の討論会を初日の午後から開始するとの方針、また環境化学の次の四半世紀に関する基調講演を候補とする考えが実行委員会から示されたことから、討論会と連携する形で初日の午前中に同じ朱鷺メッセで 25 周年記念講演会を開催する案について素案を作り、理事会メンバーに意見照会を行った

結果(別紙1)、返答のあったもののほとんどが賛成の意見であったことをうけて、本理事会で改めて討論会の直前に新潟で開催する考え方について意見を伺い方針を決定したい。なお、上記案の場合の記念講演会の具体的な内容については、討論会の主題とも密接に関連するところから、本理事会で講演会準備委員(柴田+複数の理事)を決めた後、討論会実行委員会と密接に協議しつつ内容を固めて、後日メール等で理事会メンバーに最終案を連絡し、了承を得た上で講師依頼などの手続きに入るものとした。

### 3)部会の活性化について

環境化学分野の研究活性化にむけた活動として、前回の臨時理事会で、地区部会の活性化にむけた勉強会等の活動の支援や、調査研究部会活動の一環としての環境化学誌特集号編集などの案が出された。また、関連して地域分けの整理の必要性や、若手研究者の活動の活性化などについての意見交換も行われた。その後、地区担当の大塚理事より各地区幹事からの意見聴取結果が報告され、また九州地区部会の中田幹事より具体的な活動計画と支援の要望が出されている。本理事会では以下の点についてご議論いただき方針を決定したい。

別紙2に記載された内容に基づいて活性化のための支援策を実施することでよいか。また、支援にあたり、実施した活動の内容をまとめて環境化学誌に報告してもらうことにしてはどうか。次年度の支援策はどのような方針とするか。なお、地区割りについて見直しをするかどうか、するとすればどのように実施するのがよいか。

## 2018JEC in 那覇へのアプローチ

# Goal: 日本環境化学会の活性化

藤峰 慶徳

### 学会活性化への提案 - Out of the box -

#### • 方向性

- 本部(事務局)主導型の討論会へ転換
  - ローカル実行委員会から事務局遠隔操作型へ(バンコク大会形式)
- 地域部会のボトムアップ
  - 地域部会でローカル実行委員としてサポート
  - 部会内での連携/活性化を図る←余剰金の一部を活動費として予算化(案)
- 学生/一般賞(副賞)の充実
  - 優秀賞 : 事前審査で優秀発表へ5万円旅費補助(5-10名)
  - 奨励賞 : 次年度年会費無料(機関誌を送付)

実行委員長  
門上先生内諾済み  
九州部会サポート開催

#### • 拡張性

- 他学会とのジョイント開催
  - IEEA, SETAC-J等と日程を共有
  - 4日目にて, 他学会とのジョイント
- 異業種交流, 若手育成/交流
  - 機器分析業界から外界(異業種)へ

過去の問題点→沖縄までの旅費は高い？

東京(成田)→沖縄(那覇)	3,490円 (全曜日適用)
大阪(関西)→沖縄(那覇)	3,490円～

Peach(LCC)だと往復1-2万円程度